



トップメッセージ

キョクヨーグループ CSR報告書 2018

ダイジェスト版

株式会社 極洋
代表取締役会長
今井 賢司

株式会社 極洋
代表取締役社長
井上 誠

キョクヨーグループの使命と責任

持続可能な水産業の実現に向けて、 ステークホルダーの皆様と連携し 課題解決に取り組みます

1937年に漁撈会社としてスタートした当社は、長年にわたって培ってきた水産のプロとしての総合力を活かし、海外から日本の食卓へ、そして日本から海外の食卓へと海の恵みを安定的に供給し、消費者の皆様の満足と信頼を積み重ねることで、水産物を中心とした総合食品企業グループへと成長してまいりました。

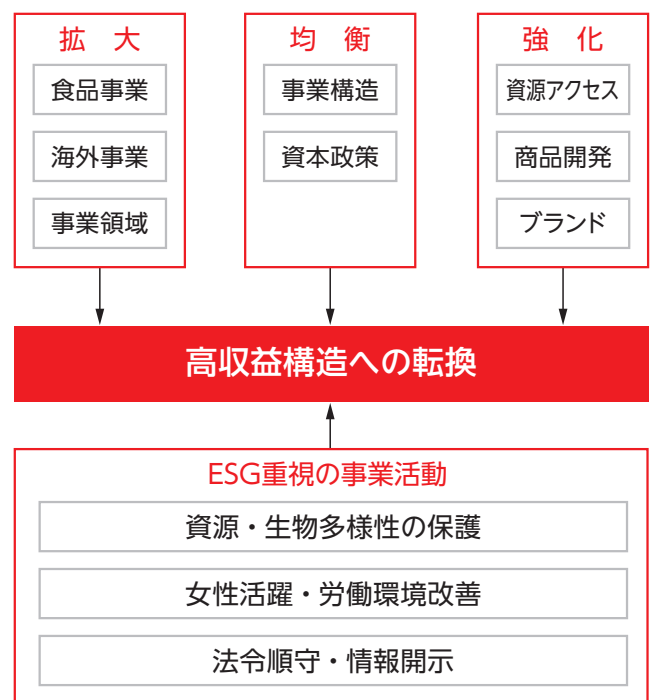
近年、世界人口の増加や健康志向を背景とする和食ブームなどにより、水産物の需要は年々拡大しています。一方で、いわゆるIUU漁業（違法:Illegal、無報告:Unreported、無規則:Unregulated）と言われる乱獲や気候変動などの影響により、多くの海域で様々な魚種の個体数が激減しています。このような背景から、水産資源の確保が年々厳しくなり、併せて資源の保護・管理が国際的に強化される傾向にあります。こうした問題は、水産・食品業界に携わる当社グループにとっても大きな課題であり、課題解決に向けて積極的に取り組む責任があると考えております。そこで、国際社会や業界団体、ステークホルダーと緊密な連携を図りながら課題解決に取り組むべく、2017年4月に持続可能な水産業の実現へ向けたグローバルイニシアチブの「海洋管理のための水産事業」(SeaBOS:Seafood Business for Ocean Stewardship)に参加、署名しました。今後も食の安定供給という食品企業としての使命を果たし続けるために、SeaBOSの10項目の取り組みを通じて社会的責任を果たすとともに、持続可能な水産業の実現に向けて従業員一丸で取り組んでまいります。

いつも となりに
おいしいキョクヨー

新中期経営計画の策定

ESG重視の事業活動を進め、 高収益構造へ大きく転換することを 目指します

当社グループは、2018年4月より新中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』(2018年度～2020年度)をスタートさせました。本計画では、『魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す』という基本方針を掲げました。前中期経営計画において推進してきた「グローバル戦略」「シナジー戦略」「差別化戦略」の3つをさらに深化させ、「ESG重視の事業活動」を土台として、「拡大」「強化」「均衡」の3つの戦略を進めることで、より強固な事業経営に向けて、固定費の適正化はもとより、売上の増大と利益率の改善により、高収益構造へ大きく転換していくことを目指してまいります。



新中期経営計画の目標値

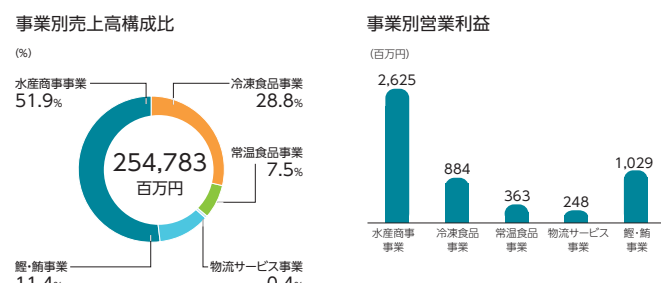
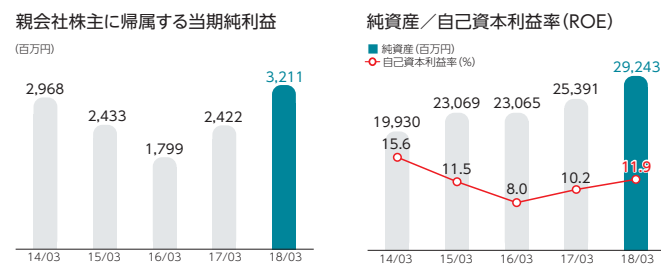
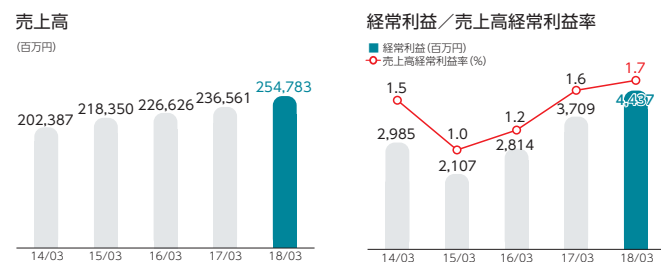
売上高 **3,000**億円

営業利益 **60**億円

経常利益 **60**億円

名 称	株式会社 極洋
所 在 地	〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号
設 立	1937年9月3日
資 本 金	56億6千4百万円
従 業 員 数	2,257名(連結) 639名(単独)
連結対象子会社数	24社
事 業 所	[国内支社] 札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡 [国内研究所] 塩釜研究所 [海外駐在員事務所] シアトル、青島、バンコク、ホーチミン、スラバヤ、アムステルダム
主 要 な 事 業 内 容	[水産商事事業] 水産物の買付および販売 [冷凍食品事業] 冷凍食品の加工および販売 [常温食品事業] 缶詰・珍味製品他の加工および販売 [物流サービス事業] 冷蔵倉庫事業 [鰹・鮪事業] 海外まき網・養殖・鰹鮪加工販売事業

主な連結財務指標



この冊子は、「キョクヨーグループ CSR報告書2018」を抜粋してコンパクトにまとめたものです。詳しい情報は本誌をご一読頂ければ幸いです。なお、当社ホームページにはPDFを掲載しています。

お問い合わせ先
株式会社 極洋
企画部CSR室
TEL 03-5545-0715 URL <http://www.kyokuyo.co.jp>



この報告書を作成した際にかかわったCO₂ 243kgは、カーボンフリーコンサルティングを通じてオフセットされ、東日本大震災の被災地から創出された国内クレジットを活用し、被災地を支援しています。

キョクヨーグループの社会的責任

社会とともに持続的な成長を目指します

キョクヨーグループのCSR(企業の社会的責任)とは、企業理念に込められた想いを実践し、持続可能な社会の発展に貢献することです。当社グループは、CSRの取り組みを通じて、新たな価値を創造し、社会価値と企業価値の向上を目指し、社会とともに持続的な成長を目指します。

また、ステークホルダーの皆様の要請や期待を事業戦略・活動に取り入れていくことが、持続可能な企業経営を進めるうえで重要であるとと考えています。



キョクヨーグループのCSR活動とSDGsの関係

当社グループでは、SDGsとESG重視の事業活動とCSR重要テーマを照らし合わせ、事業特性や強みを活かして社会的課題に貢献していきます。

CSR重要テーマ/ESG重視の事業活動	SDGs
生物多様性の保全 水産物を中心とした総合食品グループとして、豊かな海の恵みを安定的に食卓にお届けするため、海洋の健全性の維持と持続可能かつ効率的な海洋資源の利用に努めます。	14 海の豊かさを 守ろう
低炭素社会の実現/資源循環型社会の実現/生物多様性の保全 持続可能な生産と消費を実現するために、事業活動にともなって発生する環境負荷の低減と気候変動による影響の軽減に努めます。	6 安全な水とトイレ を世界中に 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう
健康で心豊かな生活と食文化への貢献/安心・安全な商品の安定的な供給 安心・安全だけでなく、時短・簡便化といった「時間価値」を付加価値として提供するなど食のライフスタイルの変化に対応した新たな価値を提供していきます。	2 飢餓を ゼロに
働きやすい職場環境づくり 働き方の多様性の尊重、女性活躍、時間外労働の削減などの労働環境の改善と、ワークライフバランスを意識した職場づくりを進めていきます。	5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も

関連するSDGs



完全養殖クロマグロ

本鮪の極 つなぐ 〈TUNAGU〉

水産物の持続的活用のためには海洋資源の適切な管理が必要であり、その保護政策が求められています。水産資源を次世代に「つなぐ」ことは、当社グループにとって重要な社会的責任であると同時に、事業を継続するうえでの重要課題です。

2017年11月、念願の完全養殖クロマグロの市場出荷を開始しました。このクロマグロには、キョクヨーの様々な思いを込めて「つなぐ」と命名しました。

次世代に「つなぐ」

持続的な養殖を目指し、
クロマグロの完全養殖にチャレンジ

日本人にこよなく愛されるクロマグロを、持続的に供給することは日本の食文化への貢献という考えのもと、キョクヨーは資源保護と安定供給を両立するための新たな調達手段として、2007年にクロマグロの養殖事業に参入しました。そして、2012年には天然資源保護に向けた漁獲規制のさらなる強化を踏まえ、「完全養殖」に取り組み始めました。

関連するSDGs



調理の手間・時間の短縮に貢献する

「だんどり上手」シリーズ

「時間価値」という付加価値の提供

「だんどり上手」シリーズの「骨なし切身商品」は、凍ったまま調理が可能のため、解凍の手間と時間を省き、調理時間の短縮になると好評をいただいています。

発売から5年目となる「だんどり上手」シリーズは、既存の「骨なし切身商品」「焼き魚・煮魚シリーズ」以外にも、「ほぐす手間を省いたほぐし身シリーズ」など、現在42アイテム100規格を超えました。今後も調理現場の様々な課題解消となるべく、商品開発に努めていきます。



資源を「つなぐ」

餌の研究と
海洋汚染防止への取り組み

養殖における飼料効率の向上は、現在、世界的に問題視される、生餌となる魚の減少や魚粉不足、また、養殖漁場の汚染問題解決の手段となります。その身を1kg大きくするために、13～14kgの生餌を要すると言われているクロマグロの場合、インパクトは尚更です。養殖水産物も持続的事业であるためには、生餌への依存を減らさなければなりません。そのため、植物由来原料や未利用資源を活用した配合飼料の開発にも積極的に関わっていきます。

